

学長のコラム

植樹と園芸花壇について

大学の西入口の左に植えた楷樹（カイノキ）の今年の紅葉は、1号館を取り巻くトウカエデの紅葉と相まって、素晴らしくきれいでした。今年2月号に掲載した閑谷学校（岡山）にある楷樹の紅葉のネット写真と比べても遜色のない美しさであった。教職員の方々からも、カイノキの紅葉を期待しているとの声を耳にしていたので、期待に応えられたのではないかと安堵している。来年までにはもっと葉が茂るとのことであるので、さらに期待できそうである。ところで、熊大医学部の山崎記念館横に、カイノキの大樹（昭和5年植樹とのことであるので樹齢90年以上か）があることを知っていたので、見に行ったが、かなり枝を切り落とされ、紅葉もしておらず、人々に注目されない存在となっていたのは残念であった。話を本学に戻すと、新アリーナ横の通走路両側の並木もトウカエデにしたことは報告したが、こちらは未だ幼木で今年の紅葉は目を見張るほどではなかった。来年以降に期待したい。期待といえば、アリーナ敷地の2号館側の斜面に、白、ピンク、赤のつつじを植えた。来年の4月中旬から5月中旬にかけて、どのような花色のパターンが出現するかご期待頂きたい。斜面の上の平地には、百日紅の木を7本植えた。8月から9月の開花を楽しみにしたい。それから、アリーナの駅側の敷地に、園芸花壇の整備が終了した。使用に供せる四つの島状の花壇があるが、二つは、OTの園芸療法用に使い、残る二つの内の一つは、

「ちいき楽暮」が使いたいとの意向があると聞いている。最後の一つ（写真では一番左の島）にハーブを中心に植えて世話をし、年中美しく保つ人またはグループを求めている。園芸クラブ等を組織して、学生と共に楽しみたいという人があれば、施設管理課三牧さんまでお申し出頂きたい。



11月・12月・1月の主な行事予定

11/26(月)	防災訓練 11:40~12:10
11/28(水)	銀杏学園 理事会
12/1(土)	助産別科一般入試、リハ(ST)実習指導者会議
12/3(月)	第10回MUSASHI会(市民の健康生活を考える会)
12/7(金)	10:00~年末賞与支給式
12/9(日)	チャレンジ熊保大!一般入試対策講座
12/21(金)	学園忘年会 ホテル日航熊本
12/26(水)	授業終了
12/27(木)	仕事納め式 11:00~※勤務時間は、8:30~12:00
1/4(金)	仕事始め式 11:00~※勤務時間は、10:00~12:00
1/7(月)	授業再開(通常勤務)*レストラン開始
1/12(土)	認知症看護分野入試
1/19(土)	大学入試センター試験~1/20(日)
1/23(水)	後期授業終了(医看生3以外) 補講日・後期授業終了(看3)
1/24(木)	メンタルヘルス対策研修会 ハラスメント防止に係る研修会 14:50~16:20
1/25(金)	1/25~2/5 後期定期試験(予備日含む)

認定看護師教育課程 認知症看護分野 修了式

秋めいた季節が訪れ、認知症看護分野二期生22名は旅立ちの日を迎えました。くしくも、その日9月21日は、世界アルツハイマーデーでした。来賓の藤井直樹先生より「認知症の人を支える周囲の家族、ケア者を支えていくことがひいては認知症者を支援することにつながる。そこにかかわっていくことが社会からも期待されている」と祝辞をいただき、より覚悟をもった表情が印象的でした。みなさまのご活躍を心より祈念しています。(文責：認定看護師教育課程認知症看護分野 飯山有紀)



動物慰霊祭

10月17日(水)さわやかな秋晴れの中、12:30より平成30年度動物慰霊祭を執り行いました。

初めに動物たちの御霊に感謝の意を込めて黙とうを行いました。つづいて大学を代表して安部副学長・学術研究部長、学生を代表して医学検査学科3年 松成謙介さんより、それぞれ慰霊の詞をいただきました。最後に大学を代表して安部副学長・学術研究部長、田中(聡)実験動物委員長、齊藤法人局長、学生を代表してリハ学科生活機能療法学専攻の東千尋さんに献花をしていただき動物慰霊祭は無事終了しました。終了後には参列していただいていた多数の学生・教職員の皆様にも献花をしていただき、本学の実験動物として犠牲になった動物たちの慰霊に感謝の祈りを捧げました。

お忙しい中ご参列いただきました皆様ありがとうございました。

(文責：総務課)



認定看護師教育課程

脳卒中リハビリテーション看護分野 入学式

10月1日(月)に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程の入学式を挙行了しました。熊本県看護協会の嶋田協会長による祝辞に、研修生9名は緊張しながらも熱心に耳をかたむけていました。厚生労働省の調査では、介護が必要となった原因割合の4割が脳神経疾患です。急性期から介護や寝たきりにさせない看護を担う認定看護師の卵達にエールを送りたいと思います。(文責：認定看護師教育課程主任教員 橋本宜子)



学部長表彰（社会活動賞）表彰式

10月5日（金）に学部長表彰式をおこない、杉内学部長より賞状と副賞が贈呈されました。

○蓑田 明子さん（看護学科4年）



Ridetoの一員として、「オレンジプロジェクト（認知症啓発活動）」を積極的におこない、国際ソープチミスト熊本さくら「学生ボランティア賞」を受賞しています。その他、NPO法人NEXTEP（障がい児サポート）や全国パーキンソン病友の会の活動にも参加しています。

○富田 真由さん（リハビリテーション学科4年）

熊本地震後、Ridetoがおこなった「児童育成クラブボランティア活動」を牽引し、「日本ユネスコの子ども支援ボランティア活動」や「西里活性化」などの活動でリーダーを担って積極的に活動を続けてきました。

学生の皆さんの益々の活躍を期待しています！（文責：学務課）

手作り紙芝居枠を寄贈いただきました！！

合志市危機管理交通防犯対策監の岩本信行さんは、元熊本県警察学校校長。趣味の木工で昔懐かしい紙芝居の枠を制作されている記事が熊本日日新聞に掲載されました。

さっそく制作を依頼したところ、10月23日に紙芝居枠2つを本学に寄贈して下さいました。大学マーク入り、拍子木もセットされていてコンパクトにカバンのように折りたためるすぐれもの！今後、大学や地域での健康教育、ボランティア活動、イベントなどで活用させていただきます。岩本さん、

本当に有難うございました。

※写真は看護学科保健師選択学生と一緒に記念の1枚です。

（文責：看護学科 中村京子）



第42回杏祭（2018年）

さわやかな秋晴れの中、第42回「杏祭」が10月20日（土）に開催されました。今回のテーマは「Keep Up Heat Up Start Up」です。「これまでの伝統を継承しながら、それをさらに進化させ、新しいアリーナで始動する！」という、学生たちの熱いメッセージが伝わってきます（テーマの頭文字でKHSU=Kumamoto Health Science University）。このようなコンセプトのもと、前日の前座祭から二日間にわたり、お笑いライブをはじめとするステージでの各種イベント、模擬店、文化展など、趣向を凝らした内容で、多くの人たちを楽しませてくれました。フィナーレでは、学生たちの想いが込められた花火が打ち上げられ、華麗な閃光が秋の澄んだ夜空を彩りました。（文責：学務課長 平川文丈）



ピア・サポーター&プチ・サポーター全体交流・研修会

去る10月26日（金）ピア・サポーター&プチ・サポーターの全体交流・研修会を開催し、これまで活動を継続した4年生28名に対し、松下弘子先生はじめ修学サポートセンタースタッフより感謝状と記念品を贈呈しました。その後、4年生を代表してOT専攻 荒川沙耶さんが、これまでの活動についての感想や後輩への温かいメッセージを語ってくれました。3年生以下のサポーターの皆さんが、先輩に続いて益々活躍してくれることを期待します。（文責：学生相談・修学サポートセンター）



フードパルフェスタ 2018

11月3日（土）～4日（日）株式会社フードパル熊本主催「フードパルフェスタ 2018」に参加してまいりました。今年度はリハビリテーション学科の理学療法専攻と生活機能療法学専攻の教員及び学生が握力・脚力・敏捷性・柔軟性などを測定する項目を行いました。脚力を測定する「立ち上がりテスト」は、日本整形外科学会が推奨するロコモ度テストの一つで、4種類の高さの台のそれぞれから両脚または片脚で立ち上がれるかどうかを調べ、下肢の筋力を評価します。全ての測定を行った後は、学生が現在の体力を評価し、今後の体力アップにつながるアドバイスを行うという形をとっていましたが、利用された方々は熱心に聞き入っておられた様子でした。

（文責：地域連携委員会事務局）



ふれあいフェスタ in ほくぶ

11月3日（土）～11月4日（日）「第28回ふれあいフェスタ in ほくぶ」に参加してまいりました。イベント会場は北部武道館で、本学は健康チェック（医学検査学科担当：体成分測定・骨密度測定・血管年齢測定、看護学科担当：身長体重測定・腹囲測定・血圧測定）を行いました。また、3日（土）のプログラムである「情熱ライブステージ」には本学と崇城大学の吹奏楽部が合同で出演し、見事優秀賞をいただきました。（文責：地域連携委員会事務局）



私の秘話ヒストリー

今回は医学検査学科の檜原 真二 学科長・教授に投稿していただきました。

幼い頃、私にとっての「アタリマエ」は野山に入って遊ぶことでした。蜂の巣を見つけ喜んだり、イノシシ・ウサギを捕まえるために罠を作ったり…。そこには多くの創意工夫がありました。尿素袋で防護服を作り、蜂に刺されないように工夫しました。イノシシを捕まえるために、いくつかの獣道に罠を仕掛けたりもしました。これらは未だに、研究にとっての一番のミス「考え続ける」につながっていると思っています。だからといって、皆様に「今から山に入っておいで」とは助言致しませんが…。この文章を見ている皆様は恐らく「檜原ってこんなことしてたの!？」と思う人もいらっしゃるのではないのでしょうか。私にとっては、今の学生の「アタリマエ」に驚かされるばかりです。スマートフォンやPCを駆使し、知りたい情報を瞬時に見つけ出すことも可能になりました。もしかしたら、今の時代は私が講義をするよりも“グーグル先生”が教えるほうがよっぽど効率的なのかもしれません。ですが、物事には良い側面と悪い側面があります。私が幼き頃、今と比べると本当に少ない情報の中で生きていた、と思います。だからこそ、迷うことが無かった。やるべきことが明確でした。今を生きる人たちは、多くの情報の中で生きております。選択肢が増えることは、自由と考えの幅が広がることを意味する一方で、取捨選択に多くの時間を要することを意味します。「一寸先は闇」という諺がございますが、まさにこの時代において意識すべきことではないだろうかと思っております。もちろん、情報が多くなった、ということは 人類が進歩してきた、ということを表してもおります。そのために、情報の取捨選択=悩むという 行動が増え、うつむきがちな人が出てしまうのも仕方の無いことでしょう。だからこそ、私は、悩むということを前向きに捉えてほしいと思うのです。この時代において、悩むということはひとつの進化です。AIではできない、機械にはない心を持った我々だからこそ出せる答えもあると思うのです。将来に漠然とした不安を持つ方々も、それは進化をしている過程だからこそその不安であると前向きに考えて頂きたい。末筆となりますが、その不安を打開していける存在が我々であると自信を持って毎日励んでもらいたいと思います。（私の秘話を書く予定だったのでね…）